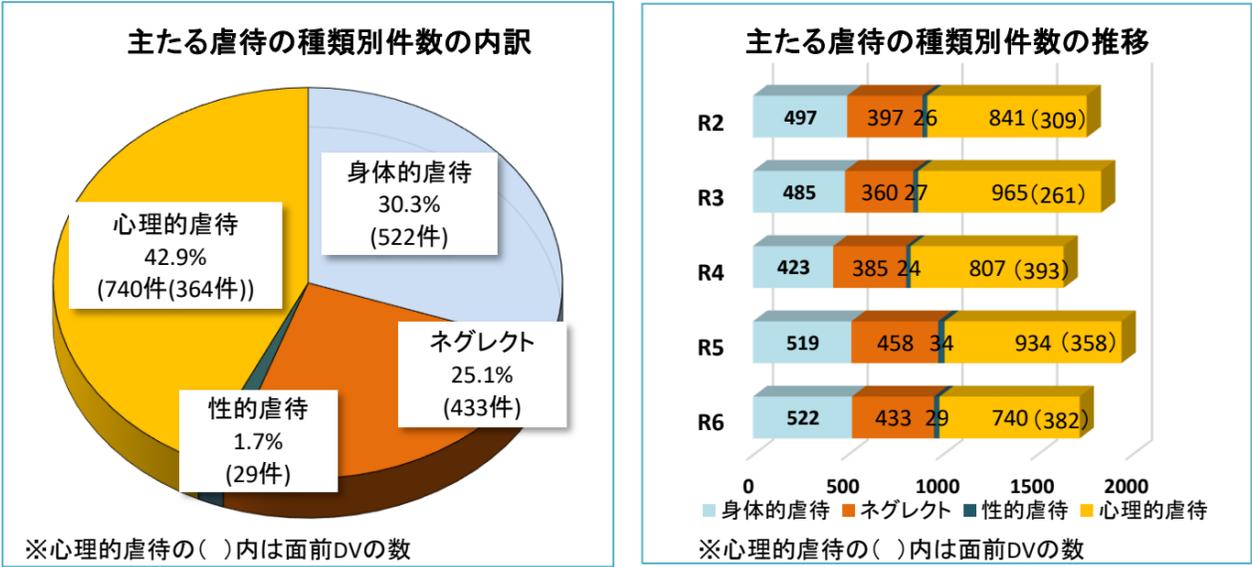
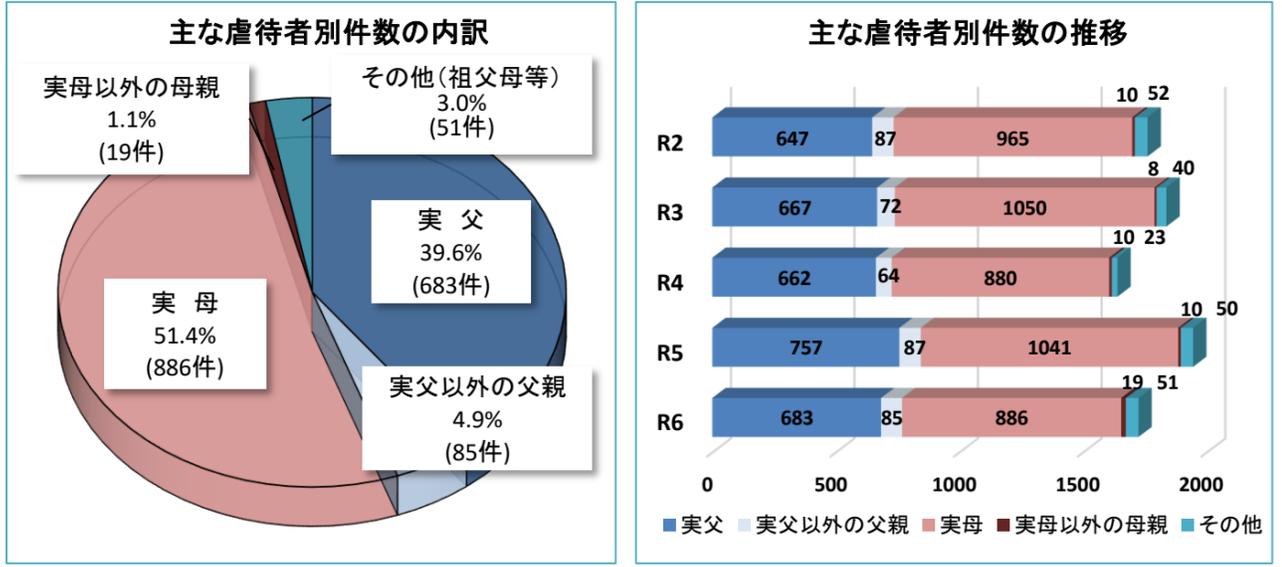


主たる虐待の種類



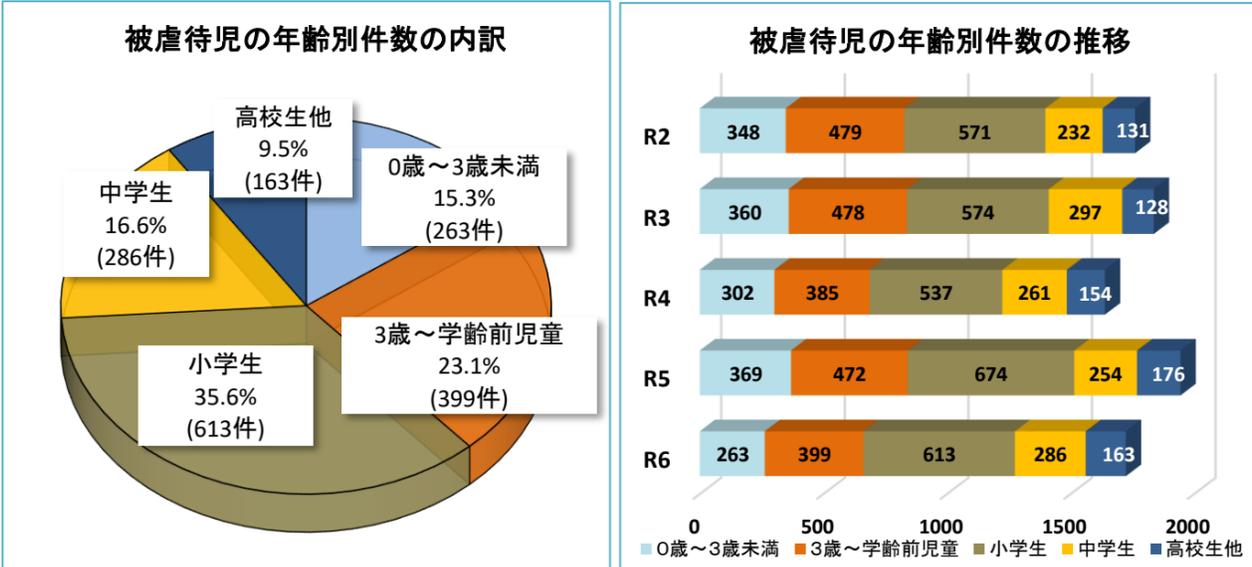
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」、「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較すると、心理的虐待が194件減(20.8%減)、身体的虐待が3件増(0.6%増)、ネグレクトが25件減(5.5%減)、性的虐待が5件減(14.7%減)となった。これまで「心理的虐待」の割合が全体の約半数を占めていたが、「心理的虐待」の割合は減少し、「身体的虐待」の割合が増加した。

主な虐待者



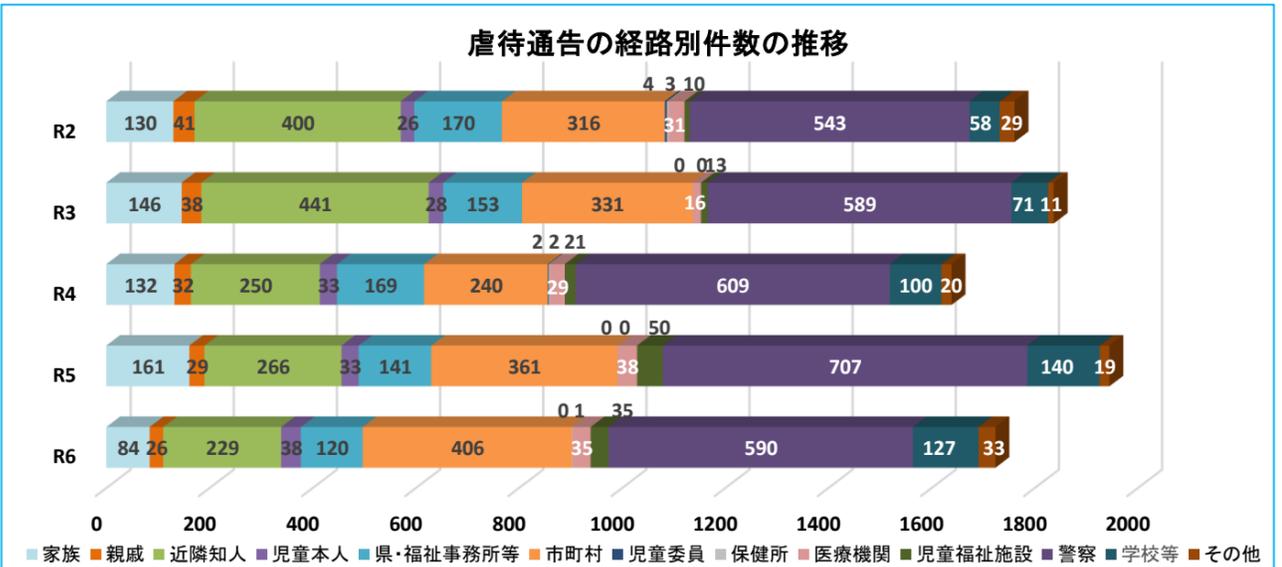
「実母」の件数が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較すると、「実父」が74件減(9.8%減)、「実父以外の父親」が2件減(2.3%減)、「実母」が155件減(14.9%減)、「実母以外の母親」が9件増(90.0%増)、「その他(祖父母等)」が1件増(2.0%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「0歳～3歳未満」が106件減(28.7%減)、「3歳～学齢前児童」が73件減(15.5%減)、「小学生」が61件減(9.1%減)、「中学生」が32件増(12.6%増)、「高校生他」が13件減(7.4%減)となった。前年度と比較すると、全体に対する「0歳～3歳未満」の割合がやや減少し、「中学生」の割合がやや増加した。

虐待通告の経路



「警察」「市町村」「近隣知人」の順に件数が多く、前年度と比較すると、「家族」が77件減(47.8%減)、「警察」が117件減(16.5%減)、「市町村」が45件増(12.5%増)となった。